

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105040
法人名	(有)四ツ葉
事業所名	グループホーム四ツ葉
所在地	愛媛県松山市桜ヶ丘643-2
自己評価作成日	平成27年7月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

H27・6/24で開設してから10年になる。開設当初からの職員も1/3いる。新人職員も成長している。毎日の朝礼時に理念を唱和し健康を第一に考えて理念に基づいた支援をしている。職員は常に利用者様の事を一番に考えている。利用者様との会話には常に笑いがあり生活の知恵や経験をもとに教えてくださる事があり生き活きと過ごせている。問題を解決する時は、職員同士報告、連絡、相談を徹底している。太陽光パネルの設備で畑が縮少されたが、野菜を作り採りたての季節の野菜を食べて頂いている。外出時もゴミひとつ残さず持ち帰るなど日常生活の延長だと意識して行動している。月に1度は外出を行い、施設だけではなく季節に応じた楽しみや外食の雰囲気を感じて頂ける様にしている。アットホームな雰囲気を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人の方針で4月から利用者を「様」と呼んでいる。職員は、笑顔で利用者に関わることを心がけており、調査訪問日の昼食時、ていねいな言葉遣いで、笑顔で利用者とお話する職員の様子が見られた。又、前回の目標達成計画に「毎日出勤時に利用者様9名に挨拶を行う」ことを挙げて取り組んでおり、職員は、取り組みを続けることで利用者の笑顔が増えたと感じていた。
日曜日以外は入浴できるよう準備しており、個々に2日に1回支援している。お好きなシャンプーや使い慣れた石鹸を用意して使用する方もある。浴槽の横に設置してあるテレビを見たり、音楽を聞きながらゆっくり入浴する方もある。入浴を拒む方には、協力医が往診の際に促す言葉をかけてくれる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容を P R!!!

- サービス向上への3ステップ -
“ 愛媛県地域密着型サービス評価 ”

事業所名 グループホーム四ツ葉

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 竹内 智子

評価完了日 27年 7月 31日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価)</p> <p>勤務者全員が理念カードを携帯し、朝礼で読み上げを行ない理念を再確認しながら意識して沿った支援が出来るように努めている。事務所には誰でも見えるように理念を掲示している。年間毎にユニットと個人で理念を基に目標を立てて取り組みを行い、振り返りを行なっている。利用者様のしたい事を個別支援として実現出来るように現在取り組みを行なっている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>法人設立時に、代表者が四ツ葉のクローバーの花言葉「健康・愛情・幸福・希望」を法人理念に採り入れており、事業所でもユニット出入口にある事務所前に掲示している。年度目標を立てており、今年度は、さらなる個別支援の実践に向けて、利用者の「したいこと」「できること」の支援に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価)</p> <p>行事や、訓練等事前に掲示を行ない一緒に参加出来るように声掛けを実施しているが啓発には繋がっていない。散歩の時に近所のスーパーや薬局で利用者様と一緒に買い物に行き、施設の買い物や個人物等を購入している。コープでは行事の弁当を購入時、内容を変更して頂いたり、事前に許可を頂き買い物の様子や支払いの様子を写真で撮影させて頂いている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>近くの回転寿司店とは外食等して顔なじみになっており、事業所の外出行事時に土産を買って帰り届けたり、年末に搗くお餅をおすそ分け等している。又、お返しに巻きずしをいただくようなこともある。事業所の駐車場で行う秋祭りは、芋炊きやおにぎり、たこ焼き等と簡単なゲームを準備して近隣の方にも案内し、数名の方の参加がある。地方祭には、お神輿が来て、利用者も駐車場に出て子ども達にお菓子を渡したり、握手等して交流している。専門学校生や高校生の介護実習を受け入れている。</p>	<p>事業所が所在する地域は、行事ごとが少ない地域のように、管理者は「地域の方に、もっと事業所の行事に参加していただきたい」と話していた。地域の方が訪ねて来やすいような取り組みを工夫して、地域の方との関係をさらに拡げていってほしい。</p>
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>消防訓練等は前もって日程を掲示し、参加希望を募っているが居られない。運営推進会議や施設内行事により参加の声掛けを行い、施設での生活ぶりや様子を見て頂き、利用者様と一緒に参加して頂く事もしている。運営推進会議の出席はご近所様も固定で家族様の参加も殆ど無い。取り組み内容を周知出来ない事もあり、地域の方が気軽に立ち寄れる場所になっていない気がする。地域に四ツ葉側から交流できるようにしていきたい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 固定の職員ではなく、全員が持ち回りで担当しテーマを決め、取り組む際に他の職員全員からアンケートを行なっている。取り組み内容を周知する事でケアの統一にも繋がっている。利用者様の日常や行事の様子を説明しながらスライドショーで見て頂き、家族様の意見等を聞く事の出来る時間を設けている。限られた家族様だけではなく来て頂けるようにしたい。市役所の方や包括の方から他の施設の取り組みやサービスを知る機会にもなり向上に繋げている。</p> <p>(外部評価) 会議にご家族の参加が少ないため、ご家族に「参加しやすい曜日や時間帯」等についてアンケートをとった。会議を「四ツ葉交流会」とネーミングして親しみやすくしたり、ご家族に好評の行事のスライドショーを採り入れる等工夫して取り組んでおり、今年度は2家族の参加がある。利用者も数名参加しており、発言する場面を作っている。会議では、入居状況と行事や取り組みの報告、外部評価の振り返り等を行い、意見を聞いている。又、職員が交代で会議テーマを決めて発表したり「介護職員になったきっかけ」を話したり、利用者には「楽しかったこと、辛かったこと」を発表してもらっている。現在、民生委員1名の参加はあるが、さらに、地域の中で役割を持っている方等に積極的に参加を呼び掛けて、会議を活かして協力体制の輪を広げてはどうだろうか。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 一緒に取り組みとして事業所としてSOSネットワークに取り組んだ。開催する研修にも参加させて頂く事が一部の職員になっており全体で取り組みたいと意見があった。包括の連絡会も管理者や出席出来る職員が参加している。毎年行っているジャズの子ケツを利用者様が参加出来るように頂く事もある。社協自体でもボランティアの活動で利用者様自身も楽しめる取り組みをしているので一緒に参加して頂く事も検討出来たらと思う。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時に、市の担当者から季節の感染症や食中毒、熱中症等の予防対策についてのアドバイスがあり、事業所からは、ノロウイルス等の感染防止対策の取り組みを報告している。地域包括支援センター主催の同業者の連絡会に管理者等が参加して、同業者同士で情報交換等を行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日中、玄関を開放し家族様が来所しやすい様にしている。利用者様の状態により必要に応じて施錠をしていたが、施錠したままにならない様に解錠している。戸ロや転倒の危険のある利用者様居室は家族様に説明行いをベッド柵に鈴で物音に反応出来る様に対応している。毎年職員全員が拘束に対する弊害を学ぶ為の項目をミーティングで行い取り組んでいる。言葉で「ちょっと待つ」と拘束があり、出来るだけ時間帯を伝える等減らせる努力を行っている。</p> <p>(外部評価) 日中は、出入り口に施錠せず職員が見守っている。調査訪問時、玄関は開放されており、出入りがあるとチャイムが鳴るようになっていた。ユニットの出入り口は、戸の開閉時に鈴が鳴る。ご家族の強い希望があり、車イスの安全ベルトやベッド柵を使用する方がいたが、5月の市の実地指導をきっかけに、ご家族にも理解を得られるよう説明し、現在は使用せずケアの工夫でカバーしている。転倒の恐れがある方の居室は、畳を敷いたり、ベッド柵に鈴を付けていた。利用者の所在不明時の対応マニュアルを整備して、年1~2回「行方不明時捜索模擬訓練」を実施している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社協での研修にも参加している。虐待は利用者様の捉え方でも虐待となる場合があるので言葉遣いも含め全体を通して注意出来る環境が必要と考えて声のトーンや精神的虐待に繋がらない様につけている。入浴時、皮膚の観察を行い何時もと違う時は他の職員に確認を行い日頃から気を付けている。毎年、虐待に対する事例を含めミーティングで周知徹底に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 社協での研修にも参加している。現在ユニットの中に活用されている方は居られないが、実際の家族様と違い出来ない事も有るので契約時には十分な説明が必要な為、職員全員が内容の把握に努めている。実際に手続きを行うのは費用も手続きも必要で難しく、理解するのも難しいが疎遠になっている家族様等には利用して頂きたい制度なので職員が今後も勉強を深め、必要な方には勧めていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約は施設長と職員が同席して実際に行った会話の記録を行い確認している。膨大な量の書類を読むので家族様が一度で理解するのは難しく、中には取り敢えず入居だけはさせたいと思っている家族様も居られる。聞いていなかったと言う部分や後に問題として出て来る部分は必ずある為、不安や疑問を解消出来る様に職員全員が説明を出来る様に今後していきたい。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置して活用を声掛けしているが使用された事は無い。家族様にも行事への参加や日常を伝え、コミュニケーションを取りながら話がしやすい様に努めている。年に1度、行事の後に家族会を行い率直な意見を伝えて頂くようにしている。月に1度の外出先の選考時、利用者様の意見を取り入れている。中には毎日の入浴を希望される方も居られるが人数上無理な事も有り、入浴が可能な日は声掛けを行う様にしている。 (外部評価) ほとんどのご家族は、月1回以上来訪があり、その際にご本人の様子を伝え、意見を聞いている。又、事業所の予定表を渡して行事等に誘っている。年1回の家族会や随時のアンケートでご家族の意見を聞く機会をつくっている。ご家族から「親戚等、誰が面会に来たのか知りたい」という要望があり、面会簿を利用者別に記入するようにした。気軽に意見が書けるよう4月から意見箱を新しくしている。	利用者の暮らしをご家族と一緒に支えていけるよう方針を共有し、ともに学んだり、活動するような機会を工夫して行ってほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>(自己評価) 施設長や管理者にも日頃から気が付いた事を相談し、意見も伝えやすい環境になっていると思う。申送りノートや月に1度ミーティングを行うので各自の意見を言える場を設けている。事務の方も頻りに施設に来て下さるので物品の事等も相談しやすい。行事等にも個々の職員からの意見を反映したり出来ている。職員全員が統一したケアになるように職員が互いに報・連・相を大切にして相談し易い環境作り努めたい。</p> <p>(外部評価) 利用者個々に担当職員を配置して、ご家族とのやりとりの窓口を明確にしている。法人は、職員研修に力を入れて取り組んでおり、職員の段階別研修を実施している。又、職員は、県内外の研修にも積極的に参加しており「下肢筋力強化の運動」等を取り入れている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>(自己評価) 旅行や研修などでも希望を出し易く、有給も年間消化率100%を目標にしている。職員でシフトをある程度相談しながら休みをズラしたり急な休みにも協力出来ており、仕事をし易い環境だと思ふ。年に1度職員から労務について施設長と1対1で話す場を設けてもらっている。管理者は常に施設で勤務しており、相談し易い位置にあり、施設長も含め直ぐに対応して頂いている。研修も内部で行うと共に、外部研修にも社を上げて参加を促している。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>(自己評価) 社内で年間4回の研修参加を義務付けている。前もって受講一覧を配布して各自が興味があり学びたい物を選択出来、費用も会社で負担して頂いており有難い。参加した職員は現場に活かせる様にミーティング時に報告し全員で共有出来る様になっている。社内で勤務年数に合わせた研修にも取り組んでいる。社協等の外部研修では包括の方等も研修に参加しておられ、顔なじみの方も増えた。職員全体から研修に対して参加意欲が見られたので勤めていきたい。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>(自己評価) 年数を隔てると実践者研修を受講するようにしている。実践者研修では施設外の方と交流する機会にもなり、各施設で問題とされているのは同じ共通の部分があるなど発見もあった。社協研修等では介護のグループホームだけでなく小規模多機能やサ高住の方も居て情報の交換にも繋がっているが一部参加職員だけになっている。職員全体から交流意欲は多く、高浜地区として講師を呼んでの合同研修会も開催しており交流に繋がっているの今後も継続していきたい。</p>	
<p>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価) 可能な場合入居前に事前に1日体験を実施。当日勤務職員が生活内容や知り得た事を全員で周知出来る様に細かく記入して統一したケアに繋がる様にしている。アセスメントは家族様の情報だけでは分からない事も多く、同居されていない保証人様は特に情報が分かり難い部分もあるあので本人様の事を知る為にも今後も体験をして頂けたらと思う。入居後は不安を抱えている事が多く、職員が慣れて頂く事を優先に1対1で関わる時間を多くしている。家族様にもこまめな連絡をさせて頂き、関係作り努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居契約前に利用者様の生活状態や家族様の要望を聞くようにしている。又、共同生活の為に出来る事や出来ない事を説明して理解して頂ける様に努めている。入居時は施設での生活に慣れて頂く事から始め、随時ケアプランに取り入れて支援に繋げている。入居してみないと分からない事も多く、家族様自身も不安な事や要望を持たれているので信頼関係が出来る様に家族様にも入居後は出来るだけ面会に来て頂き家族様の気持ちを聞き、会話をする時間を作り、コミュニケーションに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居して間もないプランには施設の生活に慣れて頂く事を一番にし、利用者様や家族様の要望を取り入れて不安がない生活をして頂ける様に声かけを行い、職員も統一したケアが出来る様に努めている。本人様が何を望んでいるのか、生活歴を参考にして支援内容を検討している。費用が発生するサービスは前もって家族様より同意を頂き了承を得てから実施している。今後も情報を聞き取り可能な事は家族様の協力の上行える様にしていきたい。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 各利用者様に合わせたお手伝いを体調や状態に合わせてして頂いている。利用者様同士のトラブルにならない様にいつも同じ方で無く、他の利用者様も一緒にコミュニケーションを取りながら行えるように声掛けをしている。起床後、外が気になる方にリビングのカーテンを開けて頂くと「私の仕事だからさせてよ」と言われ活き活きとしている、農家だった方に収穫した豆の筋取り等をお願いしている。職員は感謝の気持ちを伝え、日常生活を通してやりがいを感じる役割や生き甲斐を感じて頂ける様に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 状態の変化に合わせて連絡を行う様にしている。疎遠の家族様には月に1度、行事計画を伝達する上で電話をさせて頂き、良い事も悪い事も様子を伝えている。行事参加への声かけも行い、一緒に過ごして頂く時間を大切にしている。落ち着かず不安を訴える利用者様には家族様に了承を頂き電話で話して頂く事もある。利用者様が思いのまま自由に野外に出られない為、家族様に散歩に行ってもらったり、外食やお泊まりをされて過ごされる方も居る。中には家族様も高齢になり動き辛い方も居られるので早め早めの連絡を心掛けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近所からの入居で無い方や家族様が遠方の方も居られ家族様、知人自身も高齢化が進むと施設に訪問し辛くなっている。家族様以外の面会は殆ど見られない。元々あった関係作りを継続させる事は難しいが、来られた方が帰られる際は又来て頂ける様に声かけをしている。電話や手紙で知人とやり取りをさせている方は現在は居られない。週に1度尋ねて来られリビングで一緒に過ごされる方も居る。基本、面会時は居室でゆっくりと一緒に過ごして頂いている。滅多に来られない方や記念日は一緒に写真を撮らせて頂く事もある。 (外部評価) 遠くに住むご家族等の来訪時は、一緒に写真を撮って居室のアルバムに挟んだり飾ったりしている。知人や友人等、珍しい方の面会があれば、職員はまた来てもらえるよう声をかけている。利用者からの希望で、以前住んでいた場所に出かけた際には、ご本人はとても懐かしがり喜ばれたようだ。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員と利用者様の関係は出来ているが、利用者様同士の関係は個々の性格もありいざこざが絶えない。レクリエーションやお手伝いを通して一時的にでも仲良く出来る場を作っている。トラブル時は両者の意見を聞いたり、必要場合は気分転換に年に何度か職員全員で検討を行い席替えもを行っている。利用者様が普段は固定の席を意識しているが、夕方はテレビを囲みソファー等で共通の話題で全員が団欒出来るようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入居、退居時に情報提供を行い必要な場合は施設での生活等、問い合わせに対して施設での様子を伝えている。退居後の様子を施設長より職員全員に申し送られる事もある体調により退居後も最後まで戻りたいと希望されていた利用者様の葬儀を近所で行い、職員が通夜や葬儀にも出席した。家族様より手紙を頂いたり、生前使用していたシルバーカーや使用していない衣類の寄与をして頂いた。退居後、職員が転居先に面会に行き「四ツ葉が良かった」と言って頂いたので今後も良い支援に繋がる様に努めたい。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 介護計画更新時は本人様や家族様よりしたい事が無いか要望を聞くようにしているが「特にない」と意見が多く、生活歴や日常での会話の中からの要望を大切にしている。リーダー研修や社内研修を通して日常的な会話でも「したい」と言われた事を大切に実施する計画を立てている。現在は利用者様同行での買い物に取り組んでいる。月に1度のミーティングで各利用者様について話し合いを持つ機会を作っている。野外に出たい希望も多く、自由に入出入り出来ないので家族様に協力を頂いたり月に1度の外出先選定で希望を取り入れている。 (外部評価) 事業所独自の様式「個別援助マニュアル」を用いて、食事、排泄、移動等のご本人の「できること」「できないこと」「支援していること」「支援してほしいこと」又「好きなこと・嫌いなこと」等の把握に努めており、年1回更新をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前に施設体験出来ない方等は現場職員がアセスメントに同行し、相手の様子や情報を職員も取れる様にしている。職員全員がアセスメントに目を通し生活歴や趣味の把握に努めコミュニケーションや会話に繋げている。居室内には以前から使われていた家具を持って来られる方も少ないが椅子など、今の状態に合わせた家具を持ってこられる方も居る。生活環境が変わり、趣味を継続出来る方は少ないが、本が好きな方は家族様と図書館で借りてくる等されている方も有り家族様にも協力をして頂き継続出来る様にしていきたい。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝食後、入浴前にバイタル測定を行い一人一人の体調の状態把握に努めている。状態に変化がある時は職員間で申し送り様子を観察、主治医に連絡を行ない往診をして頂いたり、看護師に相談している。共同生活の為に自由にして頂く事は出来ない部分もあるが、1日の過ごし方の中で無理強いには成らない様に気を付けて声かけの工夫を行っている。新しく入居された方が居た時や季節の変わり目などは特に精神的に変動が多いので申し送り、全員で周知が出来る様に日報や日誌への記載し申し送りに徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 介護計画更新1ヶ月前に面会時や担当者が家族様や御本人様に要望を聞くようにしているが具体的な意見や要望が少ない。1ヶ月前の月例ミーティング時に内容を伝え、全員で日々の様子で気になる事や生活歴や季節に合わせた物も話し合い盛り込む内容についてカンファレンスを行う様にしている。毎月、介護計画が出来ているか月末に各担当者がモニタリングを実施して内容に合った事が出来ているか確認している。家族様からも要望が聞かれる様に日々の様子を伝えたり、喜ばれた事などを伝える工夫を今後もしていきたい。</p> <p>(外部評価) 事業所は、ご本人の希望を大切にした介護計画作成に努めている。「山にダチョウを見にいきたい」と希望する方には、散歩コースに採り入れた計画を立てていた。利用者個々の担当職員がご家族の意見を聞き取り、ケアマネジャーに相談しながら原案を作り、職員で話し合い計画を作成している。月1回モニタリングを行い、3ヶ月毎の見直しにつなげている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護計画に沿った内容が出来ているか、1日に1回は#の内容を書き込める様に意識して記録を行っている。介護計画を見開きのページに設置して確認し易くしている。出来ていない項目も多く、取り組みも必要だと思う。職員間で情報が共有出来る様に、何気ない行動にもヒントになる事があるので細かく会話や行動などその方が分かる様に記入に努めていきたい。又、支援経過が日報と一緒に書いた事で何時から分かる様に日々と違う事や様子は申し送りノートや日報への記載もしていきたい。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 月に1度は外出や外食の機会を作っている。行事は家族様への参加を声かけしているが余り無い為、共有する時間が増やせる様に、参加し易い行事の計画や誕生日会の参加等を出来る様に今後も努めたい。出来る事と出来ない事があるが、実施可能な要望には応えられる様にしたい。その時々に合わせて外出の機会を増やし、ドライブは運転出来る職員も限られるが事務所の職員も協力し今後も盛り込めたらと思う。訪問を活用して散髪やアロマを実施しており、訪問パンで目の前で好きなパンを選べる事も出来る様になったので楽しみを増やしたい。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 近所のパン屋さんに訪問販売して頂いている。施設まで持って来て頂き、自分で選ぶ楽しみを持っている。行事の時は出来るだけ近所のコープを活用している。弁当の写真を撮らせて頂いたり、大量注文に日程を合わせて頂いたり、受取時間が早い時や中身を変更して頂くなど協力もして頂いている。散歩時に個々に身の回りの物を購入して頂いたり、おやつを購入など実施したい。施設内の買い物も以前のように利用者様と一緒に行く事が無くなったので散歩を通して気軽に旬の魚や野菜を感じたり、見られるようにしていきたい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業 所の関係を築きながら、適切な医療を受 けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>殆どの方が花クリニックだが入居前からの医療機関をかかりつけ医とされている方も居られる。医療受診や薬は家族様に対応となっている。薬は大切な物だと職員全員認識しており切れる1週間前には連絡を行い余裕をもって持ってきて頂ける様に努めている。改定で施設に対して1日1人ずつの往診対応となりDrの訪問が増えたので以前よりも主治医に相談しやすくなったが事前の連絡を忘れない様に気をつけたい。外来の他医とは家族様を通してしか内容が伝えられないので家族様に状態の把握が努められる様に情報提供もしっかりとしていきたい。</p> <p>(外部評価)</p> <p>現在3名の方は、ご家族が付き添い入居以前からのかかりつけ医を受診している。その他の方は、月2回、協力医療機関の往診を受けている。協力医療機関や系列事業所の看護師の訪問が定期的であり、利用者の健康状態を把握してくれており、相談したりアドバイスがある。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>以前は施設内に定期的に看護師が居たが、現在は主に主治医の訪問看護師に相談を行っている。同法人内看護師にも相談出来る様になっている。DVDを通して同法人看護師により月極めのミーティングで利用者様に起こりうる医療対応の方法を学び、資料を配付して不安な点などを教えて頂けるようにしている。薬局の薬剤師の方にも薬に関して質問を行い飲み方などアドバイスを頂く事もある。主治医が来られる前に事前に看護師に伝えて医療がスムーズに受けられるように今後も連絡・相談・報告を大切にしていきたい。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様の日常が分かる様に個人マニュアルを作成している。基本介護計画更新時に改訂し、入院時にも活かせる様にしている。入院があった場合、基本職員や施設長が様子を見に行き、申し送る事で状態を担当看護師から聞く等入院時の様子も職員全員に把握出来る様にしている。退院時には診断書と共に主治医に報告を行い薬の変更や状態を伝え、退院後受診から往診に対応が必要など利用者様や家族様にも安心して頂ける様にしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>看取りは基本、行わない事になっており家族様にも入居時にお伝えはしているが家族様によっては時間が経つと忘れる事もある。家族様が混乱しない様に医療について等事前の説明が大切だと感じている。特養の申請をして頂いている。医療が必要なギリギリまでおられた方は病院での看取りだったが葬儀を施設の側で行い職員も多く参加した。高齢な方もおられるので急遽と云う場合は有る。看取りについての研修を実施しているが実際に死に直面した事のない職員の方が多く、今後も勉強を行っていきたい。</p> <p>(外部評価)</p> <p>法人の方針で看取り支援は行わないことになっており、利用契約時に説明している。現在、重度化した場合は、看取り支援を行うグループホームを希望するご家族が増えており、この1年間に3名の方が他グループホームに移った。事業所では「四ツ葉における看取り指針」を作成し、職員が「看取り介護」の研修にも参加している。利用者やご家族の意向や希望に沿った支援を実践できるような取り組みに期待したい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 新人職員の時にAEDの使用や心肺蘇生は研修内容に組み込まれている。消防で行われた救命講習にも参加させて頂いた。年間の計画の中に緊急時や脱水等の対応を盛り込んでおり、その時々利用者に必要な事や時期に合わせた取り組みもしている。必要場合は施設内NSより講習する事もしている。施設内に各マニュアルを設置して普段から閲覧出来るようにしている。練習を行っても不安は多く、実際に直面した時に冷静に対処出来る様に普段からのイメージトレーニングに努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、消防訓練を行い夜勤入り以外全員参加で夜間想定など、経験の無い職員から全員の職員が順次体験するようにしている。実際に煙を焚くなど、本当に近い形で体験者は疑問に思った事を直接消防士の方に聞いたり実践に近い形で行っている。訓練通りになるとは限らず、毎回違う問題点や疑問を全員が周知して身に付けられる様に努めている。新人職員が入社すると緊急連絡簿の内容を登録し、何か有れば連絡が出来るように意識付けしている。近所とも日頃からの協力体制が作れる様に関わりを持って行きたい。 (外部評価) 年2回、消防署の協力を得て避難訓練を行っている。5月には、煙を使って日中の火災を想定した避難訓練を実施した。利用者も参加し階段を使って避難する訓練等を行った。地域の方にも避難訓練に参加してもらえるように、事業所前のフェンスに避難訓練のポスターを掲示したり、挨拶を兼ねて近隣のお宅を訪問して案内したりしたが、参加にはつながらなかったようだ。今後も継続して地域との協力体制作りに取り組み、又、立地条件も踏まえて、津波等水害を想定した避難訓練にも取り組んでほしい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 玄関からすぐに事務所の為、記録物が面会の方の目に入らない様に整理整頓に気を付けたい。声かけは利用者様々に合わせたテンポや視線の高さやトーンに合わせられる様に気を付けトイレの声かけは出来るだけ小声やジェスチャーを行っている筆談も検討していきたい。トイレでの排泄中はプライバシーを考えて出来るだけ外から見守るようにしている。言葉は発すると取り消す事が出来ないので慎重に選ぶ様に努めている。 (外部評価) 法人の方針で4月から利用者を「様」と呼んでいる。職員は、笑顔で利用者に関わることを心がけており、調査訪問日の昼食時、ていねいな言葉遣いで、笑顔で利用者とは話せる職員の様子が見られた。又、前回の目標達成計画に「毎日出勤時に利用者様9名に挨拶を行う」ことを挙げて取り組んでおり、職員は、取り組みを続けることで利用者の笑顔が増えたと感じていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 介護計画作成時の御本人様、家族様からの希望を反映出来る様に取り組もうとしているが要望が出ない事が多い。プラン更新時だけでなく、希望された会話などを記録に残し月に1度のミーティングで話し合いをしている。共同生活の為に自由にとする事が出来ない分、水分補給でメニューの活用や、訪問パンでの選択、衣類の決定など少しでも生活の中に自分で決定出来る場面を取り入れている。決定しやすいように2択にする等選びやすいよう努めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 散歩や入浴も出来るだけ要望に合わせてコースや時間を変えている。参加を断られる方にも無理はせず、声かけを行い本人様の要望により見学やベッドタイムを取る方も居られる。共同生活の為に全てを個々に合わせる事は出来ないが、一人での外出等、出来ない事に関しては必ず何故出来ないかを説明している。行事等で何時もと違う時は事前に声かけを行い、職員は環境の一部としてバタバタして落ち着かない雰囲気させないように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 月に1度は訪問美容師に来て頂き、毛染めやカットをして頂いている。起床時や入浴後、御本人様持ちの乳液や化粧水を使用されている方も居る。男性利用者様の髭剃りは毎日声かけを行い、長い時は入浴時にT字剃刀でして頂いている。爪切りは入浴時を主にして職員が切っている。外出時は少しでもおしゃれが出来る様に前もって伝えて何時もと違う外出用の衣類を着られる方やスカーフをしたりとされる方も居る。入浴の衣類も出来るだけ本人様と一緒に選ぶようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の物を取り入れたり工夫している。前後の食材やメニューが重ならない様にしている。お茶碗やコップも個人物を使用して個々が食べ易い大きさにしている。下準備にもやしの根取りや絹さやの筋取りなど下処理を手伝って頂く事もある。畑での収穫は利用者様も楽しみにされておられる。誕生日は前もって伺い、好きな物を入れたりおやつの時にケーキでお祝いをしている。好き嫌いを把握し、嫌いな物を少なく盛りつけたり汁物で塩分を調整している。 (外部評価) 週3日は、業者で決められた食材が届き、週4日は、職員が利用者の意見を聞きメニューを決めて交代で調理している。利用者が野菜の下ごしらえや食器拭き等ができるような場面を作っている。調査訪問日の昼食後は、職員がお盆を用意すると、利用者がご自分の食器と周りの方の分を片づけてあげるような場面が見られた。利用者の誕生日当日の昼食は、ご本人が希望する献立にしており、赤飯や豚カツ、えび料理等の希望があり、利用者によっては、近くの回転寿司店から出前してもらったこともある。干し柿作りや年末の餅つき等では、利用者の出番を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の食事量のチェックを行い、病状や体重の変動により医師に必要な摂取量を相談し実施している。義歯で咀嚼出来ない方には刻みで対応し料理の説明を行っている残っている時は何処に何があるか説明し食べ易い位置に器の移動を行っている。水分制限が有る方は職員が周知出来る様に水分表も作り申し送り時に伝達する事で全体的に意識出来る様になった。脱水は特に気を掛けており、夏場はサーバーで何時でも飲める様に設置して声かけを行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 社内で歯科による講習も実施した。出来るだけ毎食後口腔ケアの声かけを行い、個々に合わせた支援している。必要な方には仕上げをさせて頂いている。中には歯磨きを断られる方も居られ、時間をズラシ口を濯ぐようにして頂いたり、家族様が面会時に協力を頂く事もある。夜間は義歯を外し週に1回ポリドントを実施している。残歯の状態を確認し、必要なら連携している歯科に往診をお願いしたり口腔指導をして頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中は全員トイレで排泄して頂く為、排泄チェックを行い定期的に自分から行かれない方には声かけを行っている。人により早めな声かけや回数を増やして失敗が無い様に努めている。パットを使用されている方も失禁が見られなくなると中止している。以前、便失禁が見られた方に合わせて朝食後のトイレ誘導を実施する事で失禁が無くなった。外出時は事前にトイレの場所を確保して早めに声かけをしている。男性利用者様は立たれてされていた習慣がある為、家族様と相談を行いシートで工夫しトイレ後に清潔を維持出来るように心掛けている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を確認して、トイレの声かけや誘導を行ったり、又、車イスの方は職員二人で介助する等して、日中は全員の方がトイレで排泄できるよう支援している。トイレの中に新聞紙と汚物入れを準備しており、ご自分でパット等の後始末をする方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の講習にも参加している。朝乳製品を摂取し、便通に良い乾物は食事の中によく使用している。どうしても繊維質な食べ物は固いと懸念がちになっているので上手に摂取できるようにしていきたい。毎日、散歩や体操を行っているが自然排便には繋がっていない。施設内で過ごす事が多いので全身を使う運動も取り入れていきたい。今は下剤に頼っている利用者様が半分以上居られる。便秘が続かないように排便チェックを行い、屯用と水分摂取で排便に繋げている。排便確認出来ない利用者様は主治医に腹診をして頂き指示を頂いている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 午後からの入浴の為、2日1回だが年末年始などは午前午後に分けて全員入浴をして頂いたり、菖蒲湯やゆず湯などを大切にしている。毎回、同じ順番に成らないように確認している、可能な時は希望で連日入れる様にしている。入浴を長期断られる利用者様に対しては職員全員で工夫し、入浴後は笑顔が見られる様に楽しんで頂いている。入浴前に体調を確認し、下剤服用の方は最後にさせて頂いたり、個人受診や外出の時は前日に入浴の声かけをしている。	
			(外部評価) 日曜日以外は入浴できるよう準備しており、個々に2日に1回支援している。お好きなシャンプーや使い慣れた石鹸を用意して使用する方もある。浴槽の横に設置してあるテレビを見たり、音楽を聞きながらゆっくり入浴する方もある。入浴を拒む方には、協力医が往診の際に促す言葉をかけてくれる。浴槽のまたぎが難しい方は、安全を考慮して足浴とシャワー浴で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、ラジオ体操や散歩で身体を動かして頂いている。居室で横になられる方は少ないが座っているだけで痛みを訴えられる方は居られる。足の浮腫があり、ベッドタイムを促しているが断られる方も多く実施時は30分程度にしている。夜間、不眠の方は少ないが消灯後、眠れない時は無理に休んで頂かず職員が水分を摂って頂いたり、話を聞く事もある。夜間は寝具の調整を行い、寝汗をかかれる方には更衣をして気持ち良く休んで頂くようにしている。夜間帯は音に注意を行い、巡視時は眠りを妨げない様に足音にも気を付けている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬、変更時は主治医に確認をとっている。処方時、開始時などにも全員が把握出来る様に申し送り、薬ケースにも記載している。外部から薬が切れる家族様に1週間前に連絡し、継続出来る様にしている。服用前後は職員が必ず2人で確認し、薬は命に関わる大切な物と全員が認識して服薬ミスが無いように声に出し名前や日付、服薬時を読み上げている。利用者様に合わせて溶け易い00錠や、粉薬が難しい方にはオブラートやスプーンの支援も行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ラジオ体操は毎日の習慣で先生役として前に立たれる利用者様も居る。午前中の気候が良い時に散歩に行き、農家だった利用者様は畑を気に掛けておられ収穫出来る物がある時は一緒に収穫し料理の下準備として皮むきなどもして頂く事も有る。洗濯量など、家庭で行っていた事を一緒に手伝って頂いて居る。年に1回、運動会を開催して2ユニットで競う楽しみも作っているが今後も機会を増やせればと思う。男性利用者様にも餅つき等活躍して頂いている。歌を好まれる方も多いので時間がある時はカラオケも増やしていきたい。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日行きたい所には行けないが、散歩で買い物や裏山にダチョウを見に行ったりとコースを選択して頂くようにして外の空気に触れる機会を作っている。月に1度の外出は計画を立てる時に利用者様に行きたい場所を聞いたり、選択をして頂く様にしている。今後、普段行けない砥部動物園なども計画している。可能な限り、計画以外のドライブも実施していきたい。施設では普段食べられない物やお酒を家族様と外泊や外食される方も居られる。家族様の行事参加は施設内行事への参加は見られたが戸外への参加は無いので声かけに努めたい。 (外部評価) 悪天候の日以外は、職員と一緒に事業所近辺の散歩に出かけている。その際に、個別の買い物の希望があれば近隣のスーパーやドラッグストア、コンビニ等に立ち寄っている。月1回、利用者の希望を反映しながら計画を立て、外食やドライブを兼ねた季節の花見物等に出かけている。奥道後のさつき展や菊花展とせせらぎ亭での魚つりは、毎年恒例になっている。いちご狩りやぶどう狩りを楽しみ、カラオケに出かけることもある。さらに、利用者様がご家族と外出を楽しめるような機会も作ってみてはどうだろうか。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 御孫様にお小遣いを自分から渡したいと持たれている方も居られ、家族様に事前に紛失の可能性がある事は説明して了承を頂いている。基本、大きな現金は持たない様にしているが、お金が無いと不安な方も居られるので金庫で貴重品を預かっている方も居る。施設の買い物に近所で同行して頂き可能な時は支払いや受け取りをお願いする事も有る。以前は週1で買い物の機会を作っていたが減った為、同行の買い物をする機会を増やしていきたい。食べ物等は基本はお預かりをし、希望時に出している。購入物が期限がある時は気を付けたい。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族様自身も高齢と云う事も有り、ホームに来るのが難しい方も居られる。電話をする際、様子を伝えたり利用者様にも伝言を伝えたりとしている。家族様により面会の頻度も違うので、疎遠な家族様に対しては利用者様が関わりを持てる様に電話での対応なども機会を増やしたい。事務所で普段は管理しているが、個人携帯を持たれ家族様とやり取りをされる方も居られる。不安を軽減する為に家族様に協力して頂き、電話での対応をして頂いて居る方も居られる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節事のタペストリーや飾りを行っている。掲示板と一緒に作った折り紙や月に1度、写真の入れ替えが出来る様になり外出の様子など利用者様も写真を楽しまれている。食事中は静かに食べて頂くが利用者様の好みに合わせて、のど自慢や相撲のみ流している。テレビは歌や時代劇等をBSも活用して好まれる物を掛けさせて頂いてる。西窓から日中は日が差し込み、日向ぼっこを楽しまれる方も居られる。空調の管理は職員が行い、窓開閉時は声かけをしている。</p> <p>(外部評価) 敷地が広く、建物前には樹木が茂り、玄関前には観葉植物や季節の花が咲くプランターを配置している。又、畑での収穫も利用者の楽しみとなっている。玄関には、先日のぶどう狩りの際に拾ってきたイガ栗を飾っていた。居間や食堂は、広々として開口部が多く明るい空間になっている。調査訪問日の昼食時、陽が射しはじめ利用者が「まぶしい」と言うと、職員はレースのカーテンを閉めて調節していた。利用者は洗濯物たたまが日課になっており「まだ入れないの」と職員に聞いていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 食事は固定の席で食べられるが、お手伝いやレクリエーションの時間は席を移動させる事もある。日中、リビングに設置しているソファで新聞を読まれたり、テレビを見られる方も居られ会話を楽しんだと過ごされている。窓際で一人パイプ椅子に座り日向ぼっこをされる方も居られる。夜間は消灯まで皆様が固まってテレビを囲む様にしている。テーブルは3つに分けているが席替えを行う事もあり、事務所前に椅子もあり職員と会話したい時に活用する事もある。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 衣類を入れるタンスは入居時に設置しており、大きな家具を持ってこられる方は少ないが亡くなられた家族様の遺品やぬいぐるみを置かれている方も居る。椅子やテーブルを持ってこられ面会時に活用されている方も居られる。朝、化粧水等を居室のテーブルで済まし出て来られる方も居る。花を飾ったり、好きな家族様の写真や芸能人の写真を掲示板に貼られたり、作成した作品を飾られている方も居られる。入居時、季節の物を全部持ってこられており整理出来ていない方も居るので利用者様が不安にならない程度に整理整頓に努めていきたい。</p> <p>(外部評価) 居室には、ベッド、整理タンス、ハンガーラックを備え付けている。整理タンスには、ご本人や職員が整理しやすいように「下着」「ズボン」等と記した紙が貼ってあった。ひ孫さん達の写真をベッドの枕元に並べたり、壁に飾っている方がいる。自ら居室に案内してくれた利用者は、使い慣れた椅子や陶器のお人形が並ぶ飾り棚を自宅から持ち込んでいた。各居室に事業所で準備したカレンダーを掛けていた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) トイレや個室の表札は迷われない様に入居時から設置する様にしている。タンスには衣類に合わせて表示し、分かり難い方には声かけで一緒にしまう様にしている。運転中、洗濯機を開閉される方も居り、危険が無い様に張り紙で表示、脱衣所に洗濯物を持って来るのが難し方に合わせて居室に洗濯籠を設置している。転倒の危険性が有る利用者様には自分で鈴を鳴らして頂いたり、ベッド柵に鈴を設置して見守りを行っている。日めくりカレンダーを設置して日が分かる様にし、季節に合わせた飾りで季節が分かる様にしている。</p>	